

こどもは 未来である

小児科外来から笑顔を広げよう

第35回

日本外来小児科学会年次集会

2026. 8.22^{sat.}・23^{sun.}

札幌コンベンションセンター

会 頭 : 伊藤 純子
事務局長 : 富本 和彦
実行委員長 : 田中 秀朋
運営事務局 : (株) プランドゥ・ジャパン

ガイドブック



参加登録

第 35 回日本外来小児科学会年次集会ホームページ

<https://web.apollon.nta.co.jp/sagpj2026/>

※各種登録・申込はホームページよりおこなっていただきます。



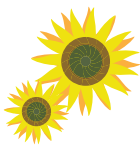
参加登録費

区分	事前参加登録 ～ 7月20日	後期・当日参加登録 8月1日～8月23日
医師・歯科医師・企業		
会員	17,000円 (不課税)	18,000円 (不課税)
非会員	19,000円 (課税10%) (内税)	20,000円 (課税10%) (内税)
メディカルスタッフ・初期研修医		
会員	9,000円 (不課税)	10,000円 (不課税)
非会員	10,000円 (課税10%) (内税)	11,000円 (課税10%) (内税)
学生 (医学生・看護学生) ※大学院生は含みません	無料	無料
ワインパーティ参加費	1,500円 (課税10%) (内税)	—
学会誌第3号 (プログラム・抄録集)	2,500円 (課税10%) (内税)	2,500円 (課税10%) (内税)

- ※会員資格は個人単位です。所属施設長のみが会員の場合、スタッフの方は非会員の扱いになるのでご注意ください。
- ※年次集会参加費には学会誌第3号 (プログラム・抄録集) は含まれません。学会の会員の方には学会誌として1部送付されます。当日忘れずにお持ちください。
- ※学会誌第3号 (プログラム・抄録集) をご購入の場合、事前参加登録をいただいた皆様には参加証などと一緒に送付いたします。後期・当日参加登録をいただいた皆様には当日、会場にてお渡しとなりますことを、あらかじめご了承ください。
- ※参加登録をいただいた皆様には、ミニプログラムを1部お渡しいたします。
- ※ミニプログラムは、事前参加登録をいただいた皆様には参加証などと一緒に送付いたします。
- 後期・当日参加登録をいただいた皆様には参加証とともに当日会場にてお渡しとなります。
- ※学生の方は参加登録の際、原則として学生証の写しを第35回日本外来小児科学会年次集会運営事務局 (sagpj35@nta.co.jp) までメール添付にて送付いただくようお願いします。メールで送付出来ない場合は当日受付でご提示ください。確認できない場合には、医師会員の区分で参加いただくことになります。
- ※学生であっても医療機関で勤務している場合には、医師・メディカルスタッフの区分となります。
- ※大学院生の方は、医師・メディカルスタッフの区分となります。
- ※後期・当日参加登録のお支払い方法はオンラインのクレジット決済のみとなります。
- ※プログラム・抄録集は、残部があれば当日会場で販売いたします。
- ※決済終了後の返金、領収書の再発行は理由の如何を問わずいたしかねます。あらかじめご了承ください。

登録開始日と締め切り日

- 本年次集会では、会員の方の先行登録期間を設定いたします。
- 会員資格は個人単位です。所属施設長のみが会員の場合、スタッフの方は非会員の扱いになるのでご注意ください。



- ワインパーティー、ランチョンセミナーは参加登録と併せてお申し込みをお願いいたします。
(ワインパーティーのみ、ランチョンセミナーのみの登録はできません)
※したがってランチョンセミナーも 5/17 (日) 正午までは会員の方のみ登録可能です。
- 後期・当日参加登録では、ワインパーティー及びランチョンセミナーへの事前申し込みは出来ません。参加証の受け取りは年次集会当日配布となることもご了承ください。
- 一般演題、パネル展示、患者家族の会・支援者の会展示申し込み、そらぷちキャンプ、ワインパーティーは予定数になりましたら締め切らせていただく場合がございます。
- ランチョンセミナーは予定数に達した場合締め切らせていただきます。
- 事前登録・ワインパーティー参加費は、7月20日(月)までにお支払いください

参加登録関連	開始	締め切り
事前参加登録 会員	5月10日(日) 12:00	7月20日(月) 24:00
事前参加登録 一般	5月17日(日) 12:00	7月20日(月) 24:00
ワインパーティ参加登録	上記参加登録と同日 (会員先行期間あり)	7月20日(月) 24:00
ランチョンセミナー参加登録		7月20日(月) 24:00
WS参加登録		6月20日(土) 24:00
後期・当日参加登録	8月1日(土) 12:00	8月23日(日) 24:00
そらぷちキッズキャンプ見学ツアー 託児のお申し込み	後日ホームページでご案内	

募集・申込関係	開始	締め切り
一般演題募集	3月30日(月)	5月8日(金)
パネル展示申し込み	3月30日(月)	5月8日(金)
患者家族の会・支援者の会展示申し込み	3月30日(月)	5月8日(金)

本年次集会ではオンデマンド配信を実施いたします。詳細はホームページでご案内いたします。

一般演題募集

受付期間：2026年3月30日(月)～5月8日(金)

いわゆる研究の発表だけでなく、日常診療での工夫・経験・疑問に思ったことの問題提起、クリニックでの工夫の紹介など、広く募集します。

小児医療に関するものであればテーマは自由です。

演者または共同演者のうち少なくとも一人は、日本外来小児科学会の会員であることが必要です。また、演者は、会員または会員が所属する施設のスタッフに限られます。

※詳細は年次集会ホームページでご案内いたします。

パネル展示募集

受付期間：2026年3月30日(月)～5月8日(金)

1. 院内報ネットワーク等の院内報(誌)の展示
各医療機関で発行している院内報をそのまま展示してください。
2. 医療保育ネットワーク等の展示
外来診療の場での、保育士他のみなさんのご活躍をご紹介します。

※詳細は年次集会ホームページでご案内いたします。

患者家族の会・支援者の会展示募集

受付期間：2026年3月30日(月)～5月8日(金)

※詳細は年次集会ホームページでご案内いたします。

ごあいさつ

メインテーマ：こどもは未来である 小児科外来から笑顔を広げよう



第 35 回日本外来小児科学会年次集会
会頭 伊藤 純子（虎の門病院小児科 / 東京家政大学子ども支援学部特任教授）

日本外来小児科学会のホームページには、設立の経緯が次のように紹介されています。「1986年5月の第89回日本小児科学会学術集会以、久留米大学・山下文雄教授会頭の下、外来小児科学がメインテーマの一つに取り上げられました。このとき愛媛県松山市の徳丸実先生（初代会長）が『外来小児医学—その日本の課題』と題する特別講演を行い、この講演を聴いた北海道厚岸町立病院小児科の五十嵐正紘先生（第2代会長）が徳丸先生のクリニックへ研修に出掛け、外来小児科学や小児プライマリケアに関する研究会を作ろうという構想を話し合いました。…第1回研究会（1991年）では、久留米大学・山下文雄教授と国立小児病院・小林登院長（当学会名誉会員）のスペシャルレクチャーが行われました」。このたび、第35回という節目となる年次集会を、五十嵐正紘先生ゆかりの地である北海道にて小林登先生のご著書のタイトルであった「こどもは未来である」をメインテーマに開催できますことを、大変光栄に存じます。

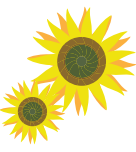
私が本学会の年次集会に初めて参加したのは、第10回（大宮、山中龍宏会頭）でした。その後、EBM勉強会（現：診療ガイドライン検討会）で五十嵐正紘先生から直接ご指導いただく機会を得て、診療のエビデンスを吟味する眼を養うことができました。教育検討会では、手探りで行っていた学生・研修医教育に関して多くの示唆をいただき、調査研究方法検討会では、研究のフィールドとしての外来小児科の可能性を実感いたしました。改めて、「目からうろこ」の連続であった本学会との出会いに感謝しております。フェイクを含め情報が氾濫する現代だからこそ、その真偽を見極める眼の重要性はますます高まっていると考えます。

少子化が進行し、こどもと小児医療を取り巻く環境は厳しさを増しております。こうした中、こどもたちの笑顔を広げていくために、私たちにできることは何か。確かな知識を根拠として皆様と考える、本年次集会がその一助となればと、実行委員一同、さまざまな企画を準備いたしました。

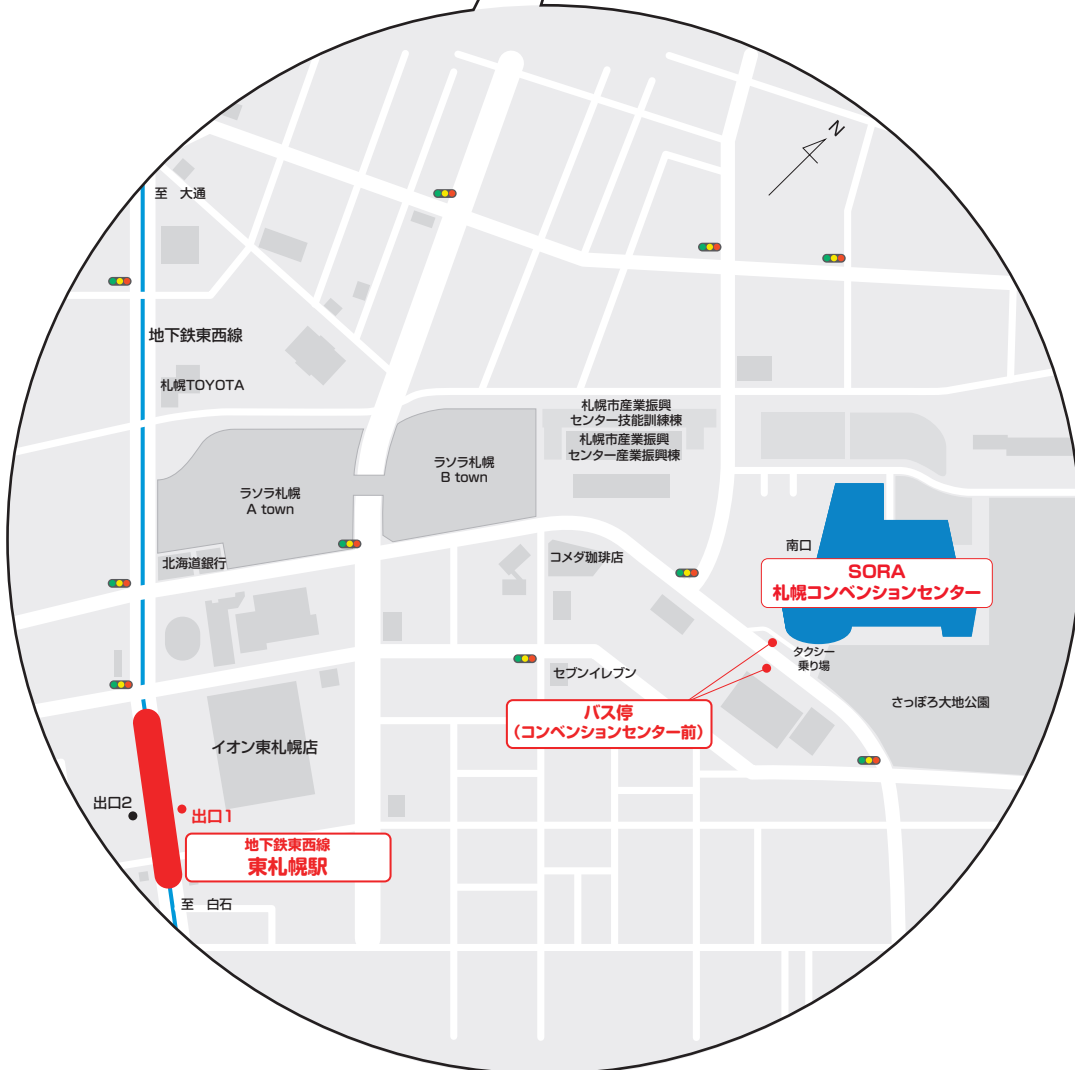
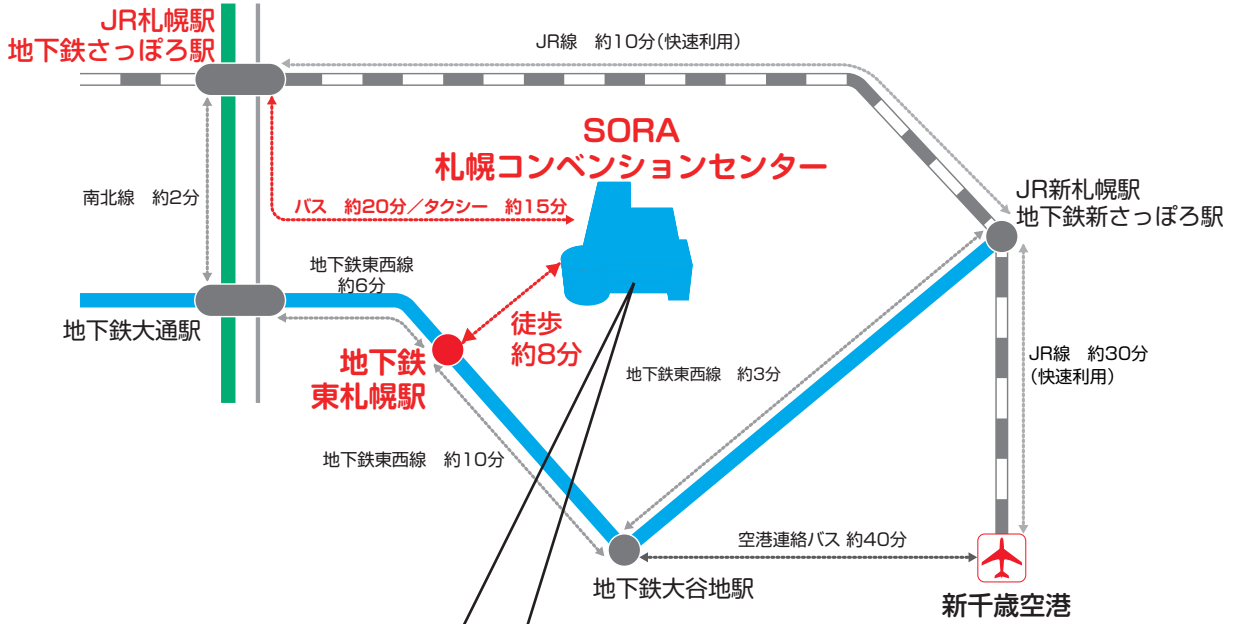
8月の札幌で皆様とお会いできますことを心より楽しみにしております。

2026年3月





会場アクセス



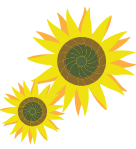


こどもは未来である
小児科外来から笑顔を広げよう

日程表

8月22日(土) / 1日目

会場名/フロア		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
			30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
大ホール A	1F	開会式	シンポジウム 北海道から地域小児医療を発信 ～道内各地の取り組みから日本の 小児科医の未来を考える			LS1 ピオメリュウ・ ジャパン株式会社	全体集会	会頭要望講演 子育ての困りごとを親 に押しつける社会で子 化は止められるのか?	特別講演 これからの小児科医 の役割:あなたは自己 変革できますか?	基調講演 未来を担う こども達の ために		
大ホール B	1F	会頭講演 ガイドラインは「正解」 ではない-エビデンス の批判的吟味とは	教育講演 小児慢性機能性便秘症の プライマリケア (専門医小児科領域講演)	教育講演 腹部超音波でみる、見逃し てはいけない急性疾患 (専門医小児科領域講演)	LS2 マグミット 製薬株式会社		特別企画 クリニックの困りごとを 見える化しよう					パ ウ チ ン ー
特別会議場	1F	委員会企画 (生涯学習委員会) 外来の質はチームで決まる- メディカルスタッフの学びを 支えるeラーニング	委員会企画 医療現場における アクセシビリティと コミュニケーション	会頭要望講演	LS3 株式会社 Berry		スポンサードセミナー Meiji Seika ファルマ					
中ホール A	1F		シンポジウム (診療ガイドライン検討会・授乳と 補完食に関する検討会合同企画) 授乳と補完食をめぐる諸問題			LS4 森下に丹株式会社		委員会企画 (倫理委員会): 研究倫理と研究公正・健全な 研究活動のための基礎知識 (専門医共通講演・医療倫理)				
中ホール B	1F		シンポジウム 5歳児健診って、今どうなっ ているの?			LS5 富士製薬工業 株式会社		会頭要望講演 診察室の気づきを在宅支 援につなぐ-私とコミュ ニティ小児科-				
107	1F		特別企画 拡大WS 折り紙の魔法を使って 親子を笑顔にしよう			LS8 JCRファーマ 株式会社		ワークショップ B-1 子どものあしとくつの基本知識 ～診療や1歳6か月児健診での 活用法～				
108	1F		一般演題①	一般演題④		LS9 MSD株式会社		ワークショップ B-2 子どもの姿勢評価による未来の開拓				
204	2F		一般演題②	一般演題⑤		LS6 田辺ファーマ 株式会社	第9回小児 AMR 対策 セミナー ～さらに広げる小児抗菌薬 適正使用の輪～					
小ホール	2F		一般演題③	一般演題⑥		LS7 株式会社 クランバース		一般演題⑦				
206	2F		ワークショップ A-1 親と子への服薬支援 その10 ～非ステロイド軟膏・新たなアト ピー性皮膚炎治療薬について～					ワークショップ B-3 赤ちゃん部屋のお化けを天使に 変えよう …虐待の連鎖を防ぐために…				
207	2F		ワークショップ A-2 心理職の事例から考える小児科診療 所における子どもの心の支援(2)					ワークショップ B-4 集まれ!メディカルスタッフ! ～みんなで語ろう!メディカルス タッフの悩み事～(その3)				
101	1F		ワークショップ A-3 多項目 PCR 検査の活用と 問題点について考える					ワークショップ B-5 「作業療法士のトリセツ」 ～小児科医との連携を目指して～				
102	1F		ワークショップ A-4 小児科外来看護師による発達障害児 支援について考える					ワークショップ B-6 成長曲線を「診断の武器」にする ～外来小児科医のための 実践的アプローチ～				
104	1F		ワークショップ A-5 患者に選ばれるかかりつけ医として ～制度を活かすための院内体制～					ワークショップ B-7 外来は生き物 ～イレギュラー対応に揺れない 受付医療事務～				
105	1F		ワークショップ A-6 楽しい外来はチームでつくる! ～笑顔で働ける環境づくりと 人間関係の質を高めるヒント～					ワークショップ B-8 自己肯定感を育てるアート体験				
201	2F		ワークショップ A-7 安心の看護を一緒につくる ～説明・声かけ・ 環境づくりの工夫～					ワークショップ B-9 子どもの貧困に気づき 支援するために part10				
202	2F		ワークショップ A-8 非医療職が担う、外来価値の創出 ～小児科外来における 先読みという仕事～					ワークショップ B-10 調査研究方法検討会 in 年次集会～ 日常のちょっとした疑問を 調べてみませんか?～				



8月23日(日) / 2日目

会場名/フロア		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
			30	30	30	30	30	30	
大ホール A	1F		シンポジウム 子どもの心の育ちを学ぶ			LS10 ファイザー 株式会社	特別講演 診療ガイド ラインの これから	閉会式	
大ホール B	1F		教育講演 子どもの「生きる」を 支える離乳ケア (専門医小児科領域講演)	教育講演 成長曲線から始まる子ども の健康マネジメント (専門医小児科領域講演)		LS11 MSD 株式会社	教育講演 小児消化管感染症診療 ガイドライン2024 から何を学ぶ?		
特別会議場	1F		シンポジウム メディカルスタッフ向け予防接種企画 (予防接種委員会合同企画) ステップアップ 予防接種			LS12 株式会社ジャパン・ メディカル・ カンパニー	教育講演 ビタミンDの 旅路～40年の 研究が語る母子 の健康と未来～		
中ホール A	1F		委員会企画 (教育検討委員会) 過去を見直し未来の医学教 育を拓く～教育検討委員会 のこれまでとこれから～	特別企画 難病とたたかう子ども たちの医療ケア付キ ャンプ施設「そらひつ キッズキャンプ」		LS13 佐藤製薬株式会社	教育講演 小児の足と靴 の診療と対応		
中ホール B	1F		委員会企画 (園学校保健委員会) 神経発達症支援をよく知ろう! ～療育・保育・教育の現場から園医・ 学校医へ伝えたいこと～			LS14 第一三共株式 会社			
107	1F			一般演題⑨		LS17 サノフィ株式 会社			
108	1F		ワークショップ C-1 Baby-Led Weaning “赤ちゃん主導の離乳”を理解する						
204	2F		シンポジウム 病児保育から広がる 子育て支援			LS15 一般財団法人 阪大微生物 病研究会			
小ホール	2F		一般演題⑧	一般演題⑩		LS16 アポットダイアグ ノスティクスメ ディカル株式会社			
206	2F		医学生・若手医師支援 こどもどこセミナー 乳幼児期を中心とした子どもの声を聴く コミュニケーションとアドボカシー						
207	2F		ワークショップ C-2 医療と教育の連携						
101	1F		ワークショップ C-3 こどものうちに解決しよう小児肥満						
102	1F		ワークショップ C-4 子どもの診かたと初期対応 ～日常を学び非常時に活かす～						
104	1F		ワークショップ C-5 小児アレルギー疾患に対する 漢方治療 (仮)						
105	1F		ワークショップ C-6 日本にも社会小児科学を 根付かせよう (4)						
201	2F		ワークショップ C-7 子どもたちをタバコから守るために						



プログラム

会頭講演

ガイドラインは「正解」ではないーエビデンスの批判的吟味とは

講師：伊藤 純子（虎の門病院小児科 / 東京家政大学子ども支援学部）

私は、診療ガイドライン検討会、教育検討会、調査研究方法検討会といった活動からたくさんの方の事を教えられました。特にガイドラインの策定プロセスを知ることは、その有用性のみならず限界を理解することに繋がり、患者への説明や若手医師の教育において大きな力となっております。昨今、AIの普及が医療現場を席卷していますが、こうした時代だからこそ「エビデンスを批判的に吟味する」姿勢が重要になってきます。本学会で得た「目からうろこ」の体験を少しでもお伝えしたいと考えております。

（伊藤 純子）

基調講演

未来を担う子ども達のために

講師：自見 はなこ（参議院議員）

自見先生はかつて虎の門病院小児科にて、患者に真摯に寄り添い、多職種から厚い信頼を寄せられる医師として研鑽を積まれました。現在はその現場経験を礎に、国政の場で「こどもまんなか社会」の実現に邁進されています。成育基本法の成立や子ども家庭庁の創設を経て、こども施策の最前線で尽力される先生をお迎えし、次世代の健やかな成長を支えるための展望を共に描けることは、私たちの活動の大きな力となると考えます。

（伊藤 純子）

特別講演

これからの小児科医の役割：あなたは自己変革できますか？

講師：五十嵐 隆（国立成育医療研究センター）

少子化や疾病構造の変化により、小児医療を取り巻く環境は激変しています。今、小児科医に求められているのは、単なる疾患治療に留まらず、子どもの「育ち」を包括的に支えることです。これは正に、外来小児科学会が小児の総合医療を目指す中で追及してきたことではないでしょうか。本講演では、五十嵐隆先生にこれからの時代を生き抜く小児科医の新たな役割を提言いただきます。自らの在り方を問い直す、熱い議論が期待されるセッションです。

（伊藤 純子）

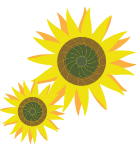
特別講演

診療ガイドラインのこれから

講師：中山 健夫（京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 / 医学部附属病院倫理支援部）

小児医療の現場においてガイドラインは重要な指針ですが、実際にそれを活用し実践する際の難しさを感じることはありませんか？ガイドラインの内容を正しく理解するには、エビデンスレベルが表すことは何か、推奨グレードをどう臨床に結びつけるべきか、法的にみたガイドラインの重みは？等の知識が必要です。このたび、日本の診療ガイドライン作成や活用を牽引してきた中山健夫先生のご講演を拝聴する貴重な機会が得られました。ガイドラインとは何かを学んだ上で臨床現場の経験を積み重ねることが、診療の質の変化にもつながると確信しています。

（井上 佳也）



会頭要望講演

医療現場におけるアクセシビリティとコミュニケーション

講師：高尾 洋之（東京慈恵会医科大学脳神経外科）

2001年から東京慈恵会医科大学の脳神経外科の医師として従事するかたわら、デジタル技術の活用をテーマに研究されているさなか、2018年に重症のギラン・バレー症候群により四肢麻痺となり、アクセシビリティによる支援に出会い、倒れる前には気づかなかったコミュニケーションが取りづらい状況にある方々の現状を自らの立場で体験、アクセシビリティ普及の重要性を痛感。

社会復帰後「アクセシビリティ・サポート・センター（ASC）」（障害や病気によりコミュニケーションが困難な方々に対し、テクノロジーを活用して意思疎通を支援する組織）を立ち上げ、医師であるとともに患者、障がい者となった知識と経験を生かし、その普及に尽力されている。

インクルーシブな社会をめざすために伊藤会頭のたつての希望で実現しました。
ぜひお聞きください。

（前原 幸治）

会頭要望講演

診察室の気づきを在宅支援につなぐー私とコミュニティ小児科ー

講師：宮田 章子（さいわいこどもクリニック）

外来小児科研究会（現学会）の開設当初より会員、役員として活躍されてきた宮田章子先生は、アドボカシーの理念を大事にされ、EBMに基づいたクリニックでの外来診療を続けてこられました。

自施設での病児保育室の開設を契機に活動の場を地域に広げ、発達障害の外来、さらに近年は医療的ケア児の訪問診療や療育を通して、自治体や地域の多職種との密な連携を継続しながら先駆的な活動を続けられています。

その在宅医療の現状を中心に会頭要望講演としてお話ししていただきます。

コミュニティ小児科を目指す園医、学校医、会員の皆さんふるってご参加を！！

（前原 幸治）

会頭要望講演

子育ての「困りごと」を親に押しつける社会で少子化は止められるのか？

講師：網塚 貴介（青森県立中央病院）

少子・少子化が止まりません。この背景には、子育てにかかる経済的負担もありますが、リスクに対する保障が充分でないことも大きいと思われます。全体の出生数に応じて、一定の比率で病児や障害を持った児が生まれます。現状では、こうした子どもへの対応の多くは親に押し付けられており、結果として親が職や生活基盤を失う可能性があります。これでは、現在の生活にある程度満足している若い世代の方ほど、子どもを持つ気にはならないでしょう。

この状況に医療者が支援できることは何でしょうか？今回は勤務医の立場から見た医療的ケア児支援の実際についてご紹介します。

（富本 和彦）

教育講演

子どもの「生きる」を支える緩和ケア

講師：長 祐子（北海道大学病院小児成人移行期医療支援センター）

長祐子先生は小児がんが専門ですが、小児緩和ケアを北海道の子どもたちに届けるために、米国の短期研修やシンガポール留学で小児緩和ケアの実践を学んできました。本講演では、疾患や障害を抱えながらも、子どもらしい時間を過ごし、家族と笑顔になれるような小児緩和ケアについて「こどもホスピス」の活動も交えお話ししていただきます。

（伊藤 純子）



教育講演

小児期慢性機能性便秘症のプライマリケア

講師：富本 和彦（とみもと小児科クリニック）

「便秘」の児が受診した際に、プライマリケアでは食物繊維の摂取指導や緩下剤の一時的な処方だけで終わっていることも少なくありません。過去の報告で、便秘の治療成績がプライマリケアより三次施設で良好だった理由として「先進的な治療をアグレッシブにやったから」とし、便秘が慢性化して成人に持ち越したケースは、三次施設への紹介が遅かったものとされています。まあコテンパンな言われようですが、確かに治療で一時改善すると、その後うやむやになって慢性化していくケースが多いのでしょうか。でも悔しいと思いませんか。長年、便秘と正面から向かい合ってきたことでもあります。今回は短い時間ですが、プライマリケアでできる子どもの排便障害の評価・治療のポイントをお伝えします。

（富本 和彦）

教育講演

腹部超音波でみる、見逃してはいけない急性疾患

講師：浅井 宣美（茨城県立こども病院 小児超音波診断・研修センター）

診断は問診に始まり、視聴診、触診が基本です。名医ならば、深い洞察力と研ぎ澄まされた感覚だけで、ある程度の診断に至ることも可能なのでしょう。まさにゴッドハンドです。

一方、腹部疾患はブラックボックスの部分が大きく、しかも稀ながら緊急性の高い疾患もあります。ゴッドハンドを持たない我々には厳しいものがありますが、代わりに解像度に優れたエコーがあります。今回、腹部超音波領域では高名な浅井塾の塾頭、浅井宣美先生をお呼びしました。多忙な外来でエコーをゴッドハンドに代わるものとして駆使するコツを伝授していただけるものと思います。

（富本 和彦）

教育講演

小児消化管感染症診療ガイドライン 2024 から何を学ぶ？

講師：津川 毅（札幌医科大学小児科）

小児の消化管感染症は罹患率が高く、2003年の米国疾病予防管理センター（CDC）に始まり、国内外でガイドライン（GL）が発行されてきました。本GLでは、治療に関する9個のクリニカルクエスチョン（CQ）と、疫学・診断など35個の解説を行いました。

今回の講演では、海外の推奨と異なるCQ（整腸薬、腸管出血性大腸菌への抗菌薬）と、Minds診療GLに準拠したCQ・システマティックレビュー（SR）作業の解説を中心に、「何を学んだか？」を共有させていただきます。

（津川 毅）

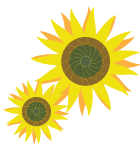
教育講演

成長曲線から始まる子どもの健康マネジメント

講師：伊藤 善也（日本赤十字北海道看護大学）

成長曲線は、子どもの健康状態を映し出す基本的かつ強力なツールです。単なる記録に留めず、そこから疾患の兆候や生活課題をいかに読み解くかが小児科医の腕の見せ所と言えます。成長学の第一人者であるばかりでなく、看護教育の現場でも豊富な経験を持つ伊藤義也先生から、成長曲線を活用した包括的な健康マネジメントの極意を伝授いただきます。日々の外来診療の質を一段引き上げる、実践に満ちた教育講演です。

（伊藤 純子）



教育講演

ビタミンDの旅路～40年の研究が語る母子の健康と未来～

講師：時田 章史（クリニックばんびいに）

ビタミンD研究の40年を振り返り、活性型ビタミンDの測定法で始まり、留学先で出会ったビタミンD受容体遺伝子多型の発見が、骨粗鬆症予防や治療の世界的大論争を引き起こした背景について説明する。母子の骨代謝を体質から捉える視点に加え、母乳栄養、紫外線などの因子の関与、ビタミンDと免疫やアレルギーとの関係など、多岐にわたるビタミンDの不思議と可能性をわかりやすく解説する。

（時田 章史）

教育講演

小児の足と靴の診療と対応

講師：落合 達宏（宮城県立こども病院整形外科）

落合先生は1995年に宮城県拓桃医療療育センターでキャリアを始め、2011年の東日本大震災の経緯から2016年に宮城県立こども病院へ統合移転、現職となりました。整形外科医35年、小児整形外科医30年の経験をお持ちの専門医です。小児の足とその先にある靴に興味をもち、こどもの運動を支える靴あるいは小児足部疾患を軽減させる靴について考えてこられました。「外来に携わっている小児科の先生方は、足や靴について聞かれることも多いと思います。こどもの運動器の専門医として役に立つ情報。内容的には小児の足の疾患、成長に伴って求める小児靴の機能、疾患への対応。とくに扁平足、浮趾、内またに触れたいと思っています」。NHK Eテレのすくすく子育て「子どもの靴と足の発達」2025.5.17放映の御出演では、寄せられる質問へのアドバイスがわかりやすい！と評判を呼びました。詳しい内容はNHK ONEでご覧になれます。

（吉村 眞由美）

シンポジウム

北海道から地域小児医療を発信～道内各地の取り組みから日本の小児科医の未来を考える

講師：佐々木 暢彦（厚岸町立病院）、古田 博文（ふるた小児科クリニック）
平野 至規（名寄市立総合病院小児科）、高柳 滋治（はるこどもクリニック）

年次集会初開催となる北海道は、広大な面積の中に人口と機能が分散し、人口が集中する札幌と過疎化が進む地方とで格差が広がっています。北海道はこの国が抱える少子化などの構造的な問題に他地域よりも早く直面しており、将来の課題を先取りしていると言えます。この状況の中、多様な背景を持つ道内各地の小児医療が向き合っている課題や実践について「現在地」を報告します。札幌から日本の小児科医の未来をともに考えましょう。（須貝 雅彦）

シンポジウム

子どもの心の育ちを学ぶ

講師：川畑 友二（心療内科クリニック川畑）、柳生 一自（北海道医療大学心理科学部臨床心理学科）
田中 康雄（こころとそだちのクリニックむすびめ / 北海道大学）
澤田 敬（NPO 法人カンガルーの会代表 小児科医）

子どもと関わる全ての職種にとって、子どもの心の発達を知ることはコモンセンスとして身につけるべきことではないでしょうか。心身症、あるいは発達障害診療に限らず、どんな疾患でも子どもを診るときは常にその子の心の状態、親子の関係性に留意して診るべきでしょう。このシンポジウムでは先ず基礎知識として心の育ちを学び、更にACEs（逆境的小児期体験）が与える影響や発達障害と愛着障害との関係、そして心に深い傷を持つ親子へどのように接するべきかを学びます。

（松原 徹）

シンポジウム

授乳と補完食をめぐる諸問題（診療ガイドライン検討会・授乳と補完食に関する検討会合同企画）

講師： 瀬尾 智子（緑の森こどもクリニック）、瀬川 雅史（のえる小児科）
山田 翔（たけのやま歯科）、天満 麻美（かるがも藤沢クリニック）

今年のシンポジウムでは、はじめに日本の母乳育児の現状と課題についてレビューし、なぜ近年、母乳率が下がったのかについて考察します。また、歯科医師の視点から見た「赤ちゃんの気持ちに応える」授乳と補完食についての解説と、クリニックの看護師による補完食支援の実践についての報告を聞きます。明日からクリニックで利用できる何かを持ち帰ってください。

（瀬尾 智子）

シンポジウム

メディカルスタッフ向け予防接種企画（予防接種委員会合同企画）

ステップアップ 予防接種

講師： 涌水 理恵（筑波大学 医学医療系）
奥山 舞（国立健康危機管理研究機構 感染症研究所 予防接種研究部）、崎山 弘（崎山小児科）
志賀 加奈子（日本赤十字北海道看護大学）

予防接種は、外来小児科にとってとても大切な役割を担っています。医師や看護師、医療事務など、外来で働くスタッフ一人ひとりが関わり、協力しながら行われる仕事です。本セミナーでは、予防接種を安全に進めるための基本を確認するとともに、子どもや保護者の方が安心して来院できる雰囲気づくりについて一緒に考えます。日々の診療にすぐ役立つ、やさしく実践的な内容です。

（中村 豊）

シンポジウム

5歳児健診って、今どうなっているの？

講師： 宮崎 雅仁（三好医院）、川上 一恵（かずえキッズクリニック）、
小林 憲昭（こばやしこどもクリニック）

2025年、ある生成AIは「多くの自治体が5歳児健診を実施しています」と回答しました。しかし、実際は多くの自治体で5歳児健診は制度化されていません。東京都渋谷区川上一恵先生、埼玉県川越市小林憲昭先生、香川県東かがわ市宮崎雅仁先生が、それぞれの苦勞、問題点、成功事例など、異なる視点で5歳児健診を語ります。小児人口、交通インフラ、医療資源など条件が異なる地域の実情を知り、今後の5歳児健診を一緒に考えていきましょう。

（田中 秀朋）

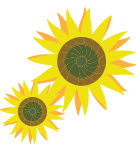
シンポジウム

病児保育から広がる子育て支援

講師： 垂井 洋樹（たるいこどもクリニック）、吉岡 淑隆（つむぎこどもクリニック）
米倉 順孝（大名よねくらクリニック）、宮本 直彦（げんきキッズクリニック）

病児保育は、昭和40年代の草の根活動から始まり、現在では国の子育て支援策にまで発展してきました。今回のシンポジウムは、病児保育を足掛かりにして、更にその先の子育て支援に取り組んでいらっしゃる小児科の先生方に講師をお願いしました。これからの子育て支援を熱く語っていただきます。新しいアイデアが満載です。病児保育をやっていらっしゃる先生もぜひご参加ください。

（原木 真名）



特別企画

難病とたたかう子どもたちの医療ケア付キャンプ施設「そらぶちキッズキャンプ」

講師： 佐々木 健一郎（(公財) そらぶちキッズキャンプ）、宮坂 真紗規（(公財) そらぶちキッズキャンプ）

そらぶちキッズキャンプは、北海道滝川市にある、医療ケアを必要とする子どもたちが、病気や障がいに関係なく自然の中で仲間と過ごす、医療施設を完備した体験型キャンプです。医療従事者やボランティアがチームとなり、安全に配慮しながら、子どもたちの「できた」「楽しい」を引き出します。本講演では、キャンプの理念や具体的な活動内容、医療者が関わる意義について、実例を交えて紹介します。

なお、8月21日（金）の午後に見学ツアーを行います。詳しくはホームページをご覧ください。

（馬場 一徳）

特別企画

クリニックの困りごとを見える化しよう

講師： 阿真 京子（特定非営利活動法人日本医療政策機構 / 子どもと医療）、
涌水 理恵（筑波大学 医学医療系）、奥 典宏（十日市場こどもクリニック）、
田草 雄一（ぽよぽよクリニック）、在本 祐子（上大岡こどもクリニック）

2025年2月に実施した「クリニック勤務メディカルスタッフの困りごと」に関する全国調査結果をもとに、代表的な困難場面を取り上げます。本企画では医師・看護職・多職種によるロールプレイを通して現場のリアルを可視化し、参加者とともに解決策を探る拡大ワークショップ形式で展開します。日常診療の質とチーム力向上につながる実践的な学びの場を提供します。

（涌水 理恵）

特別企画

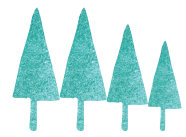
拡大WS 折り紙の魔法を使って親子を笑顔にしよう

リーダー： 赤平 幸子（城東こどもクリニック）
サブリーダー： 秦 一裕（ぽよぽよクリニック・スマイルクリエイター）

折り紙を使って子どもたちを笑顔にしたい！という取り組みを実践している2つのクリニックから、親子の笑顔を引き出す折り紙の魔法についてご紹介させていただきます。また、こどもたち達を「お〜っ！」と言わせる折り紙の技を取得し、ぜひ持ち帰っていただきたいと思っています。小児科外来に折り紙を置いてみませんか？いっしょに折り紙を使って外来で出会う親子を笑顔にしましょう！

（赤平 幸子）





委員会企画

<倫理委員会> 研究倫理と研究公正：健全な研究活動のための基礎知識

座長： 稲光 毅（いなみつこどもクリニック）

講師： 三品 浩基（神戸市 こども家庭局）

本邦の研究倫理指針は、人を対象とする研究に携わる者の基本的責務として、「研究者等は、研究の実施に先立ち、研究に関する倫理並びに当該研究の実施に必要な知識及び技術に関する教育・研修を受けなければならない。また、研究期間中も適宜継続して、教育・研修を受けなければならない。」と定めています。そのため、年次集会において、研究倫理に関する研修の機会が、定期的に設けられることは重要と考えています。今回の研修では、これまでの倫理審査の経験に基づき、研究計画書を作成する際に研究者が抑えておくべき倫理的配慮のポイントについて解説します。また、健全な研究活動を行うために必要とされる研究公正に関する基礎知識（不正行為の防止、利益相反の管理、等）についても、過去の事例を取り上げながら紹介したいと思います。

（三品 浩基）

委員会企画

<園学校保健委員会> 神経発達症支援をよく知ろう！～療育・保育・教育の現場から園医・学校医へ伝えたいこと～

講師： 須見 よし乃（こころと発達クリニック えるむの木）、芦田 泰子（株式会社キッズランド）

世良 彰康（こども支援ルーム）、高畠 昌之（ひまわり幼稚園園長）

小児神経専門医でない方も、園医・学校医として「困っている子どもたち」に積極的に関わってみませんか。このシンポジウムでは児童精神科医、療育機関、保育園、学校など各種の支援の現場から現状と課題を話していただき、参加者と共有することを目指します。園医・学校医は子どもたちの関係機関すべてをつなぐことができるポジションにあります。子どもたちのために医療と療育・保育・教育をどうつなげるか考えましょう。

（須見 雅彦）

委員会企画

<生涯学習委員会> 外来の質はチームで決まる－メディカルスタッフの学びを支えるeラーニング－

講師： 奥 典宏（十日市場こどもクリニック）、涌水 理恵（筑波大学 医学医療系）

本学会の柱の1つである「子どものトータルケアの実現」には、小児外来の質の向上が欠かせません。そしてその質を支えているのは、チームの一員であるメディカルスタッフの皆様です。これまで医師向けだった「eラーニング外来小児科Q&A」を、メディカルスタッフの皆様の学びにも役立つ教材へどう発展させるか、ぜひ一緒に考えてみませんか。現場目線のご意見をお待ちしています。

（奥 典宏）

委員会企画

<教育検討委員会> 過去を見通し未来の医学教育を拓く－教育検討委員会のこれまでとこれから－

講師： 森田 潤（こどもクリニックもりた）長井 健祐（ながい小児科医院）島田 翔（久留米大学小児科）

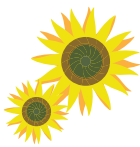
中山 裕介（中山小児科クリニック）

Winston Churchillの「遠い過去を見通せる者だけが、遠い未来を見通すことができる」という言葉は、歴史を振り返ることの意義と、そこから未来を構想する視点の重要性を示しています。

まず、教育検討委員会がこれまで歩んできた卒前・卒後教育の役割と成果を、“未来を切り拓くための資源”として再評価します。そのうえで、会員の医学教育への関わりの現状を報告します。さらに「こどもどこ」活動が、医学生のカリヤ選択や小児科医としての専門性形成にどのように繋がってきたかを、若手医師の声をもとに提示します。

歴史（Past）・現在（Present）・次世代（Future）を一本の線で結び、学会が担う医学教育の今後について参加者とともに議論し、考える企画です。

（長井 健祐）



ワークショップ（予約制・定員制）

それぞれの詳しい説明は、ホームページをご覧ください。

8/22（土）午前 9:10～11:40

拡大WS 折り紙の魔法で親子を笑顔にしよう

- A-1 親と子への服薬支援 その10
～非ステロイド軟膏・新たなアトピー性皮膚炎治療薬について～
- A-2 心理職の事例から考える小児科診療所における子どもの心の支援(2)
- A-3 多項目PCR検査の活用と問題点について考える
- A-4 小児科外来看護師による発達障害児支援について考える
- A-5 患者に選ばれるかかりつけ医として ～制度を活かすための院内体制～
- A-6 楽しい外来はチームでつくる！
～笑顔で働ける環境づくりと人間関係の質を高めるヒント～
- A-7 安心の看護を一緒につくる
～説明・声かけ・環境づくりの工夫～
- A-8 非医療職が担う、外来価値の創出 ー小児科外来における先読みという仕事ー

8/22（土）午後 14:00～16:30

- B-1 子どものあしとくつの基本知識～診療や1歳6か月児健診での活用法～
- B-2 子どもの姿勢評価による未来の開拓
- B-3 赤ちゃん部屋のお化けを天使に変えよう …虐待の連鎖を防ぐために…
- B-4 集まれ！メディカルスタッフ♪
～みんなで語ろう！メディカルスタッフの悩み事～（その3）
- B-5 「作業療法士のトリセツ～小児科医との連携を目指して～」
- B-6 成長曲線を「診断の武器」にする ー外来小児科医のための実践的アプローチー
- B-7 外来は生き物 ～イレギュラー対応に揺れない受付医療事務～
- B-8 自己肯定感を育てるアート体験
- B-9 子どもの貧困に気づき支援するために part10
- B-10 調査研究方法検討会 in 年次集会
～日常のちょっとした疑問を調べてみませんか？～

8/23（日）午前 9:00～11:30

- C-1 Baby-Led Weaning “赤ちゃん主導の離乳”を理解する
- C-2 医療と教育の連携
- C-3 こどものうちに解決しよう小児肥満
- C-4 子どもの診かたと初期対応～日常を学び非常時に活かす～
- C-5 小児アレルギー疾患に対する漢方治療（仮）
- C-6 日本にも社会小児科学を根付かせよう（4）
- C-7 子どもたちをタバコから守るために



小児 AMR 対策セミナー / こどもどこセミナー

第9回小児 AMR 対策セミナー～さらに広げる小児抗菌薬適正使用の輪～（仮題）

8/22（土） 13:00～15:30

日 時：2026年8月22日（土） 13:00～15:30

形 式：前半は講演形式、後半はグループワーク形式

リーダー：磯部 裕介（浜松医科大学 小児科学講座）

薬剤耐性（Antimicrobial resistance：AMR）菌の拡大は世界的な問題であり、抗菌薬適正使用をはじめとした AMR 対策は現在も継続した課題である。これまで本セミナーは日本小児感染症学会との共同企画により 2018 年から開催し、講義・グループワークを通じて様々な地域で行われている小児 AMR 対策の好事例や課題を共有してきた。特に、医師だけでなく多職種の参画、耳鼻咽喉科をはじめとした他診療科とのコラボレーション、行政と連携した地域一丸の取組みの重要性、抗菌薬供給制限への対応などがディスカッションされた。また医学部学生を中心とした活動についても取り上げた。

当セミナーでは外来で処方される抗菌薬として内服抗菌薬について論じてきた。しかし内服以外の外用抗菌薬や点眼抗菌薬の適正使用も重要な事項である。今回は前半では小児科医が学ぶ機会の少なくなりがちな内服以外の抗菌薬について、他診療科の視点から講演を予定している。後半はグループワークを行い、小児診療に関わる立場として AMR 対策に何ができるか、何が必要かなどディスカッションを予定している。

対象：医師、看護師、薬剤師、医療事務など小児医療にかかわるすべての職種 学生の参加も歓迎

グループワークの事前参加登録はこちらから



※年次集会の参加登録も必要です。

医学生・若手医師支援委員会 こどもどこセミナー

8/23（日） 9:10～11:20

乳幼児期を中心とした子どもの声を聴く コミュニケーションとアドボカシー

座長：こどもどこ代表 西村 瑠夏（金沢医科大学 医学部5年）

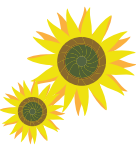
講師：利根川 尚也（国立研究開発法人 国立成育医療研究センター教育研修室）

中村 俊貴（東京都立小児総合医療センター総合診療科）

本セミナーは、小児医療の根幹である「子どもとのコミュニケーション」を、乳幼児期を中心に体系的かつ実践的に学ぶことを目的としています。おふたりの先生を講師にお招きし、医学生・研修医が、発達段階に応じた子どもの表現を理解し、臨床現場で子どもの声を代弁（アドボカシー）できる力を育むことも目指します。このテーマに関心のある方は、学生・研修医に限らず聴講可能となっております。

（時田 章史）

※年次集会の参加登録も必要です。



ランチョンセミナー・スポンサードセミナー

「ランチョンセミナー」共催企業

8/22 (土) 12:00 ~ 12:50 開催

- LS1 ビオメリュー・ジャパン株式会社
- LS2 マグミット製薬株式会社
- LS3 株式会社 Berry
- LS4 森下仁丹株式会社
- LS5 富士製薬工業株式会社
- LS6 田辺ファーマ株式会社
- LS7 株式会社クランバース
- LS8 JCR ファーマ株式会社
- LS9 MSD 株式会社

8/23 (日) 11:50 ~ 12:40 開催

- LS10 ファイザー株式会社
- LS11 MSD 株式会社
- LS12 株式会社ジャパン・メディカル・カンパニー
- LS13 佐藤製薬株式会社
- LS14 第一三共株式会社
- LS15 一般財団法人阪大微生物病研究会
- LS16 アボットダイアグノスティクスメディカル株式会社
- LS17 サノフィ株式会社

「スポンサードセミナー」共催企業

8/22 (土) 13:50 ~ 15:50 開催

- SS1 Meiji Seika ファルマ株式会社

早朝ラン

毎年恒例の早朝ラン、今年もやります！

特徴は①大通公園、北大など東京オリンピック 2020 マラソンコースの一部を含むコース設定、②大都市の利便性を生かした「地下鉄利用」(邪道!?)。戻りたい時間にあわせて中途退場も OK、です！ウォーキングも計画中です。旅ラン好きな方、せっかく来たけど札幌観光の時間がない！という方もぜひご参加を！！

(須貝 雅彦)



ワインパーティー

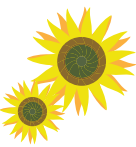
8月22日(土)初日の夕方、学術プログラム終了後に会場内でワインパーティーを開きます。北海道ならではのワインやビール(ソフトドリンクもご用意)を片手に、ワークショップで知り合った新しい仲間、シンポジウムや講演の演者など、もっと話を聞きたい人を見つけて、どんどん話しかけて交流を深めましょう。ここでは、軽食だけをご用意します。当学会初めての北海道開催です。夕食は、札幌の街に繰り出して、それぞれお気に入りのお店でお楽しみください。札幌のグルメガイドを参考に、人気の店は各自事前のご予約をお忘れなく・・・

(田中 秀朋)



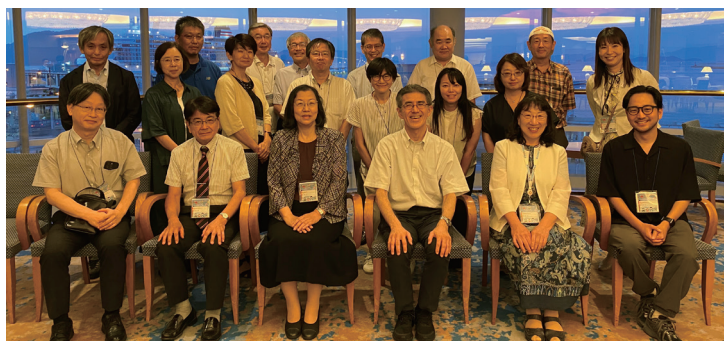
託児

後日ホームページにてご案内いたします。



第 35 回日本外来小児科学会年次集会実行委員会

会 頭	伊藤純子	(医) 虎の門病院 (港区) / 東京家政大学 (狭山市)
事務局長	富本和彦	(医) とみもと小児科クリニック (八戸市)
実行委員長	田中秀朋	(医) あかちゃんとかどものクリニック (川口市)
委 員	赤平幸子	(看) 城東こどもクリニック (弘前市)
	網塚貴介	(医) 青森県立中央病院 (青森市)
	在本祐子	(助) 上大岡こどもクリニック (横浜市)
	井上佳也	(医) 井上こどもクリニック (深谷市)
	江田明日香	(医) かるがも藤沢クリニック (藤沢市)
	奥 典宏	(医) 十日市場こどもクリニック (横浜市)
	加地はるみ	(医) 加地医院 (八王子市)
	萱場 潤	(医) かやば小児科医院 (仙台市)
	川上一恵	(医) かずえキッズクリニック (渋谷区)
	小林憲昭	(医) こばやしこどもクリニック (川越市)
	佐藤和人	(医) 上大岡こどもクリニック (横浜市)
	須貝雅彦	(医) おひさまクリニック (釧路町)
	瀬尾智子	(医) 緑の森こどもクリニック (岡崎市)
	瀬川雅史	(医) のえる小児科 (札幌市)
	多田香苗	(医) 愛育こどもクリニック (大和市)
	土田 晃	(医) 土田こどもクリニック (旭川市)
	時田章史	(医) クリニック ばんびいに (港区)
	仲村和子	(医) 仲村医院 (目黒区)
	中村 豊	(医) ゆたかこどもクリニック (神戸市)
	長田伸夫	(医) ひらおか公園小児科 (札幌市)
	原木真名	(医) まなこどもクリニック (千葉市)
	馬場一徳	(医) ばば子どもクリニック (羽村市)
	古川 裕	(医) ふるかわ医院 (木津川市)
	前原幸治	(医) まえはら小児科 (多摩市)
	松澤明美	(看) 北海道大学 (札幌市)
	松原 徹	(医) 城東こどもクリニック (弘前市)
	涌水理恵	(看) 筑波大学 (つくば市)
相談役	山本 淳	(医) 星川小児クリニック (横浜市)
オブザーバー参加	尾崎貴視	(医) おざきこどもクリニック (観音寺市)
オブザーバー参加	高田慶応	(医) たかだこどもクリニック (生駒市)





SARSコロナウイルス抗原検査キット

体外診断用医薬品

製造販売承認番号 30500EZ00047000

イムノエース® SARS-CoV-2 III

【重要な基本的注意】

- 1.本品の判定が陰性であっても、SARS-CoV-2感染を否定するものではありません。
- 2.検査に用いる検体については、厚生労働省より発表されている「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 病原体検査の指針」を参照してください。
- 3.診断は厚生労働省より発表されている医療機関・検査機関向けの最新情報を参照し、本製品による検査結果のみで行わず、臨床症状も含めて総合的に判断してください。
- 4.鼻腔ぬぐい液を検体とした場合、鼻咽頭ぬぐい液に比べ検出感度が低い傾向が認められているため、検体の採取に際して留意してください。
- 5.検体採取及び取り扱いについては、必要なバイオハザード対策を講じてください。



判定時間は10分

新型コロナウイルス抗原を10分で検出



テストプレートの写真は SARS-CoV-2 抗原陽性例です。



変異株との反応性を確認

オミクロン株・デルタ株(本製品の添付文書より)



輸送用スワブ付製品をラインナップ

60テスト包装には輸送用スワブを付属



他のイムノエースシリーズと検体共用可能

検体共用可能なイムノエース製品につきましては下記の一覧表をご参照ください



キット全体写真(10テスト包装)



輸送用スワブ(鼻腔用)

・検体共用可能な項目・検体種

SARS-CoV-2 III	Flu	アデノ	hMPV	RSV Neo	Flu/RSV
鼻咽頭ぬぐい液*					
鼻腔ぬぐい液					

具体的な検体の採取部位等は各キットの添付文書をご参照ください。
※アデノ・hMPV・RSV Neo・Flu/RSVの「鼻腔ぬぐい液」が該当します。

製造販売元

株式会社 **タウンズ**

〒410-2325 静岡県伊豆の国市神島761番1

お問い合わせ

お客様専用フリーダイヤル

0120-048-489

受付時間 / 9:00~17:00

(土・日・祝日・弊社休業日を除く)

大会事務局

あかちゃんとかどものクリニック

〒332-0017 埼玉県川口市栄町 1-12-21 シティデュオタワー川口 203

運営事務局

第35回日本外来小児科学会年次集会 運営事務局

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-3-6 大門アーバニスト 401

株式会社ブランドゥ・ジャパン内

TEL: 03-5470-4401 E-mail: sagpj35@nta.co.jp

(運営事務局は在宅勤務の場合もございます。お問い合わせはできるだけメールでお願い申し上げます。)

第35回日本外来小児科学会年次集会ホームページ

<https://web.apollon.nta.co.jp/sagpj2026/>

